

他業態の各金融商品に対する取組姿勢の変化とその特徴 農協信用事業動向調査結果から

はじめに

家計部門の金融資産残高を日銀の資金循環統計でみると、06年12月末（速報値）で1,540兆円となっており、過去最高を記録した。その前年比伸び率は06年9月末の3.6%から同年12月末の1.0%へと低下傾向にあるが、国債・財融債（06年12月末の前年比伸び率は20.3%）や投資信託受益証券（同29.5%）、年金準備金（同8.5%）が増加し、金融資産全体を下支えしている。

こうした市場性金融商品の伸びの背景には、低金利が続くなかで、リスクはあるものの少しでも有利な利回りを求める利用者（中高年や富裕層が中心）が増加していることがあげられる。

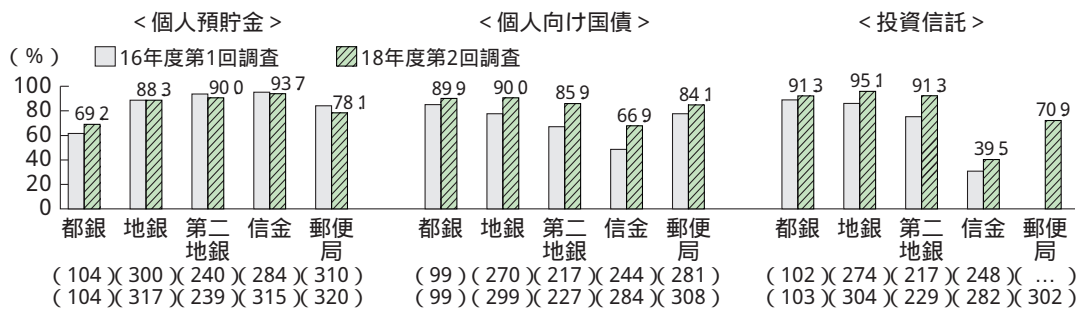
一方、投資信託や個人年金保険等の預かり資産ビジネスに力を入れている金融機関の取組みも市場性金融商品の伸びにつながっている。本稿では金融機関の動向に着目

し、当農中総研が実施している「農協信用事業動向調査」（以下「動向調査」）を用いて、預貯金や預かり資産に対する他業態の取組姿勢について考察する。

1 業態別の各金融商品に対する取組姿勢
「動向調査」では、平成16年度第1回調査（以下「16-1調査」）と18年度第2回調査（以下「18-2調査」）で農協からみた他業態の各金融商品に対する取組姿勢を調査している。他業態の取組姿勢についての農協判断は「かなり積極的」「やや積極的」「積極的でない」「品揃えがない」「管内に該当する金融機関がない」の5つである。

このうち、他業態の取組姿勢を積極的（「かなり積極的」+「やや積極的」）と判断する農協の割合を個人預貯金、個人向け国債、投資信託でみたものが第1図である。^{（注1）}
16-1調査から18-2調査にかけて、個人預貯

第1図 農協からみた他業態の各金融商品に対する積極的な取組姿勢



資料 農中総研「農協信用事業動向調査」

（注）1 各金融商品において、他業態を「かなり積極的」および「やや積極的」と判断した農協の合計割合を示す。

2 取組姿勢割合の母数には「管内に該当する金融機関がない」と回答した農協数を除いている。

3 図中のカッコ内の数値は回答母数。上段は16年度第1回調査、下段は18年度第2回調査。

4 16年度第1回調査では郵便局の投資信託の取組姿勢について調査していない。



金では積極的とみる割合がやや低下しているものの（都銀を除く）、いずれの業態でも7～9割の高さにある。

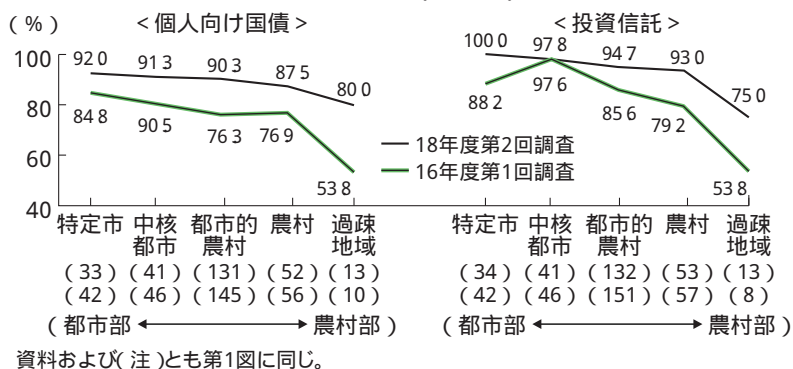
これに対し、個人向け国債、投資信託ではほぼすべての業態で積極的と判断する農協の割合が高まっている。なかでも、第二地銀や信金の上昇幅が大きく、18-2調査では業態間の差が縮まっていることが確認できる。

（注1）農協割合の母数には「管内に該当する金融機関がない」の回答数を除いている。

2 地帯別の各金融商品に対する取組姿勢
「動向調査」の18-2調査では、個人預貯金で農協と競合する金融機関を聞いており（複数回答）、上位3位は地銀（66.6%）、郵便局（58.7%）、信金（44.4%）となっている。このうち、最も割合が高い地銀に着目し、個人向け国債と投資信託に対して地銀の取組姿勢が積極的とみる農協の割合を示したものが第2図である。ここでは、特定市、中核都市、都市的農村、農村、過疎地域といった地帯別に集計した。^{（注2）}個人向け国債、投資信託とも16-1調査では都市部から農村部へ向かうにしたがって割合が低下している。この傾向は18-2調査でも同様に見られるが、都市的農村や農村、過疎地域で大きく割合が高まっている。その結果、地帯間の格差が縮小するかたちとなっている。

（注2）地帯区分は、農協が所在する地域を5つに分類した農中総研独自の農協の地帯区分である。

第2図 農協からみた地銀の各金融商品に対する積極的な取組姿勢(地帯別)



おわりに

本稿では、他業態の預貯金や預かり資産に対する取組姿勢について考察した。農協の判断に基づけば、他業態は個人預貯金への取組姿勢を維持しつつ、預かり資産ビジネスへの取組みを積極化させているとみることができる。^{（注3）}また、地銀は都市部だけでなく、農村部でも預かり資産ビジネスに力を入れるようになったと農協は判断している。農協の視点ではあるが、こうした業態間および地帯間の格差の縮小は、預かり資産ビジネスが近年広範に取り組みられていることを示すものである。農協においても組合員基盤が変容するなか、総合的な資産管理の一環として預かり資産ビジネスへの取組みが重要となっている。その推進課題を今後は分析していきたい。

（注3）この結果は、地銀・第二地銀で個人の預貯金残高と投信預かり資産残高がともに増加傾向にあるという分析結果と一致する（渡部喜智・田口さつき（2007）「進展する地域銀行の預かり資産業務と個人の投資指向」『金融市場』3月号）

（主任研究員 江川 章・えがわあきら）